

わったということでもあります。愛媛の鉄筋コンクリート造の黎明期を構築したということで大きな影響を残しました。先の萬翠荘や旧石崎汽船本社ビル、鍵谷カナの頌功堂もそうでございます。



旧石崎汽船本社ビル（松山市）

官庁建築ではそういったもの以外にも重要な建物がございまして、これは松山市の住宅街持田に建つ松山地方気象台です。少しモダニズムっぽい、しかし左右非対称、それから非常に機能主義的な建築です。建物の屋上に上がりますと、昔のアスファルトの黒塗りの痕跡がございます。これは戦時中に真っ黒に塗ったという証拠です。もちろん時計台にあるはずの時計も戦時中に供出されたものとして、戦災をよく知る建物でございます。設計は戸村秀雄、施工は藤山（T.TOYAMA）です。こうした方々のお名前が銘板に刻まれておりまして、我々がやったということをととても誇らしげに今も語っております。



松山地方気象台（松山市）

南予に下りますと、明治期の建物では旧宇和島警察署があります。数奇な運命をたどっており、警察署から西海町役場になって、今度はまた宇和島に帰ってきて歴史資料館になっております。それから内子町の旧警察署と長浜町役場。それぞれ今も健在で、ただし用途を少し変えながら使われております。

次に学校建築について紹介してまいります。愛媛の学校建築の多様性ということでは、各時代のものがきちん

と残って反映されています。また、木造校舎が多く見られる。これは文化庁もびっくりするくらいで「数えてないのか」と聞かれたこともございます。それから木造の講堂建築が沢山残っており、それも篤志家の役割が大きいということで、地域における学校の象徴性が伺えるものとなっております。

学制改革は新教育制度としては明治5年に発布されたわけですが、それに対応してまずは西予市宇和町の申義堂が和風建築で建てられました。明治15年には開明学校が擬洋風建築として建てられ、現在は国の重要文化財として指定されております。ここは開放されまして、戦前の教育の在り方みたいなものをここでパフォーマンスすることもございます。

講堂建築でしっかりした建物が実は愛媛大学に残っておりまして少し宣伝させていただきます。愛媛大学教育学部附属中学校講堂・章光堂でございます。今回、いろいろ調べましたところ設計者が分かりました。文部省営繕の鳥海他郎という方であり、建物は大正11年に竣工いたしました。萬翠荘と似たような時期なのですが、ちょうどそのころに昭和天皇が恐らく皇太子のときに来られてそのためにあれこれ間に合わせて造ろうというようなことがあったようです。つぶれていたドーマー窓も復元されまして、今春、とてもきれいに耐震改修され復元されました。ドーマー窓を復元したおかげで光が入ってきて、ここの中の光の影がとても美しい文様になっています。



愛媛大学教育学部附属中学校講堂（松山市）



愛媛大学教育学部附属中学校講堂（松山市）